

都築正和先生、ロウフマン・グレートバッチ賞授賞

2015年AAMI年次大会

6月6日～8日：コロラド州デンバー市にて



授賞式会場で出番を待つご夫妻

4月1日、都築先生にメールを出しました。

「大変です。今年のAAMIの大会で先生が大賞「ロウフマン賞」を授与されることに決定したと、今FDA-AAMI基準会議の朝、極秘でローガン女史より知らせてもらいました。先生がお元気で表彰式に出席できることを強く期待していました。大会までは極秘ですが、先生には知らせが届きます。」

すると先生からも同じ日に返事が届きました。

「メール拝受致しました。「ロウフマン賞」と云われるのは”Harold Laufman, Wilson Greatbatch Award”のことでしょうか。もしそうならば、「大変」と云われるのは良く分かります。授賞式はAAMI 2015の期間中にあるのではないかと思います。日時と場所はもう決まっていますか？ 私はこの10日ほどInfluenzaに掛かってしまい、やっと回復してきた処です。6月初旬であればDenverに伺うことは可能です。お忙しい中、恐縮ですが以上について情報をいただければ幸甚です。」

それからのメール交換は先生から11通、わたしからは15通。後で知ったのですが「大変」という言葉は都築家では何かにつけて使われているのだそうです。だから私が「大変です」と書いても先生の耳には響くものがなかったかもしれません。次に名高きロウフマン賞と読んで、初めて大変が本当に大変になったようです。ロウフマン氏とは

シカゴ大学医学部の循環器系の外科医で、98歳の時のバイオリンを弾いて家族を楽しませているビデオがユーチューブにもあります。グレイトバッチ氏とは電気技師で発明家、最初の埋込型心臓ペースメーカーを発明した一人です。

4月1日～2日のFDA-AAMI基準会議が事の始まりではありません。受賞の可能性について知ったのは今年2月25日です。その経緯については基準会議の報告書に以下のように書きました。

4月1日の朝8時半、1階の会議場入り口付近でローガン理事長とサイドボトム氏に偶然出会い引き留められた。「マサコ、都築先生がロウフマン・グレートバッチ賞受賞者に決まったわよ！ 授賞式まで秘密なので誰にも言ってはだめ。招待状を送るので先生に伝えておいてね。授賞式に来ていただくと好いんだけど。大丈夫かしら。」

本当に実現した！ 実は2月25日にAAMI幹部を招待したJSMI(日本医療機器学会)の新年会で、都築先生がこの大賞の受賞者候補に挙げられていることをローガン女史に耳打ちされていた。しかし選考委員会でどのような結果になるか分からないので「都築先生にも話してはダメ」と釘を刺された。もちろん私だって後で先生をがっかりさせるようなことはしたくなかった。

都築先生の名前が候補に挙げられていると聞いただけでも、たいへん誇らしいのに、先生に一番多く票が入ったとは嬉しい驚きだった。水面下で政治的に他の人を推そうとする運動があったかもしれない。都築先生の場合は全く何も運動せずに遠くにいるだけで選ばれたのだから、AAMIとJSMIの関係も捨てたものではない。そしてその関係を長年かけて築いたのが都築先生だ。

4月25日、華子夫人から都築先生経由でメールが届きました。「その後お



元気でご活躍のことと存じます。先日AAMIの会について、お伺いいたしましたが、会長様などへおみやげをどうしたらよろしいでしょうか？ 授賞式の服装は、どのようにしたらよろしいでしょうか？ 例えば、タキシードなど。引き続き、お伺いしたいことができました。今回のことを話したら、孫が（工藤航20歳）是非祖父の晴れ姿を見せてほしいと申し出ております。孫が陪席することは、可能なことなのでしょうか？ お教えいただきたく、よろしくお伺いいたします。」

そして上のお嬢さんの真理子さんから5月19日にメールが来ました。「今回の

航クン

真理子さん

AAMI 2015 は当初 航のみ参加させる予定でございましたが、両親とも 久しぶりの渡航で 荷物の運搬などに だいぶ不安な様子でしたので、急きょ私も同行することに致しました。」

当日の6月6日午後5時45分。いよいよ本番です。奨学金受賞者を含め各分野の受賞者が一人二人と会場前に敷いた赤い絨毯の上を歩いてきます。壇上にはアカデミー賞のトロフィーに似せた板の象が左右に立っています。そして説明を受けた受賞者は会場から出て階下の写真撮影室に赤い絨毯を歩いて下りて行きました。一般入場は6時半からですが6時には日本臨床工学技士会のツアーを組んで来た9人が入口まで見えていて、記念写真を撮り終えて戻っていらっしゃった先生ご家族を拍手でお迎えしました。

AAMIのキャンブル最高運営責任者があたふたと私に囁きました。「今、都築先生からスライドを用意したので使いたいとの要望がありましてね、3分話されると思っていただけなのですが……。でも先生を推薦したコグディル次期会長に折角遠くからいらしたのだから是非準備してくれと頼まれて。急な成り行きなので職員が慌てているところです。話が長くなると集まった人たちが出て行ってしまう恐れがあります。スライドの枚数を聞いてくれませんか？」 今回の会場セッティングでは立食者が多いので出入りが自由。どれだけ客足を引き留められるかを心配したらしい。

いよいよ音楽が流れ先生を紹介するスライドが終わると、ショーラ会長が先生の名前を呼びました。前もって「先生の話が長くなったら合図をしてください」と頼んで華子



夫人にも演壇に上がってもらうことにしていました。先生と華子夫人が席を立ち歩き出したのですが、先生は演壇下で一端止まり会場に向かってゆっくりと手を振りました。拍手が湧き、そしてそれに応えて手を振

り、拍手が湧き、手を振る。それが2～3分続いたのでしょうか？ その手の振り方は自然で堂々とし、先生の人格を表わしていて、それが米国人の心にも伝わったようでした。

演壇に上がるとまた拍手。そして先生が手を振る。ここでも1～2分は立往生。こんなに歓迎された受賞者は前代未聞です。やっと推薦者のコグディル氏が先生を紹介し、先生がスライドを5枚に減らしたスピーチを始めることができました。会場の横では航くんが先生のパソコンからスライドを操作していました。先生は手短かにロウフマン氏と

の出会いなどAAMIとの関わりを話され、もう少し聞きたいと思わせる余韻を残して話終わりました。何とお見事なパフォーマンス。完全に一本取られました。

一般社団法人日本医療機器学会
米国駐在員 カフマン政子